



2005.3.1
第126号

編集
福島県教育庁
会津教育事務所
編集協力
小・中学校長会
発行
村会会
町員議支
市協議支
委員津支
福島育絡会
北教連 北耶両

節目の年に

会津教育事務所 長 菅 敏之



新世紀幕開けを告げる除夜の鐘が鳴り響く中のことである。平山郁夫画伯が、奈良薬師寺において、自作の「大唐西域壁画」に最後の筆入れを行ったことが新聞やテレビでも報じられた。縦二・二五m、横五十mにも及ぶ二十年かけた大作で、その入魂開眼法要であった。作品の迫力とそれにかかるエネルギーには驚かされた。画才もさることながら、意欲、根気強さ、そして優しさ、自分を律する強い心には感心させられ力強いその生き様に「生きる力を見た思いであった。」

押しも押されぬ日本画壇の第一人者であるから、おそろしく、小中学校の頃は絵筆を持ち専らその分野で頭角を現していたのかと思いきや調べてみると、どうもそうばかりではない。ど

う生きるかの原理は水泳から学んだというのだ。小学校時代は水泳の選手で、六年生の時に中国地方の大会で優勝しているのである。そのことで画伯は「子どもの時の水泳が一生を支えている。どんなことでも、面白さだけでは限界がある。自己流ではだめ。そして厳しい訓練からは、工夫が生まれ、肩の力を抜くことを覚えた。また、上には上がいること、負けることの悔しさ、と、トップに立つことの難しさも知った。振り返ってみれば、どう生きるかの原理のようなのを子どもの頃の水泳で知ったのではなかるうか。」と語っている。

大きな夢は、ごく小さい身近な努力から実現するという大切なことをプールから学び、自分の一生を左右するものになったのだと思う。きっかけは毎日の生活の中に、その取組の中に間

違いなく存在する。何をやったかもさることながら、何をやり続けているかが大切な事になってくるのではないだろうか。

さて、学校週五日制、新学習指導要領が実施されて三年、県独自の少人数教育を行ってからも三年が過ぎようとしている。大きな節目の年と考える。次年度、県では少人数教育の更なる充実を目指しており、新年早々方向性が示された。導入の原点到に立ち返って、今までできなかった何ができるかを考え、小さなことの積み重ねを大切にしたい。どれだけ意識して取り組んでいくかで結果が違ってくる

各種受賞紹介

○敬称省略

保健体育功勞者
小田 典正(剣道)

○文部科学大臣表彰
地方教育行政功勞者
故前山都町教育委員会教育長
平田 二郎

へき地教育功勞者
河沼郡柳津町立柳津中学校長
平野 茂穂

社会教育功勞者 川崎 利夫

○県学校給食優良団体・功勞者表彰
学校栄養師 大越 芳子
(会津若松市立第一中学校)

・学校給食

・学校給食優良団体
会津若松市立日新小学校

・学校給食

○県学校園保健優良校表彰
保秀貞

会津若松市立東山小学校

北塩原村立北山小学校
高郷村立高郷第一小学校
河東町立河東第二小学校

・読書活動優秀実践校
柳津町立久保田小学校

三島町立三島小学校
会津若松市立大戸小学校
塩川町立塩川小学校

・学校保健
山都町立山都第二小学校

山都町立山都第二小学校
三島町立三島中学校

・生涯スポーツ功勞者
菊池 力 衛

○県学校安全優良校表彰
会津若松市立城北小学校
入道

・生涯スポーツ優良団体
会津スキー倶楽部

喜多方市立第二小学校
会津若松市立小金井小学校

・体育指導委員功勞者
塩田 一 恵

会津若松市立謙教小学校
安齋 敦

○県教育委員会表彰

○県学校関係緑化コンクール表彰
(学校緑化推進活動の部 小学校)

・学校教育功勞者
会津若松市立城北小学校校長
佐藤 信 高

高郷村立高郷第二小学校
(学校環境緑化の部 小学校)

・学校教育功勞者
会津若松市立謙教小学校校長
佐藤 晃

関東森林管理局長
会津若松市立川南小学校
森林組合連合会長賞

・社会教育功勞者
会津若松市立仁仁小学校
父母と教師の会
会津坂下町長井青年団

柳津町立久保田小学校
緑化協会理事賞
高郷村立高郷第一小学校
湯川村立勝常小学校

・芸術功勞者 玉川 岩 雄

ふくしま夢実現プラン・基礎学力向上推進支援事業だより 本郷町立本郷第一小学校

理科の実践研究に3年間取り組んだ結果、自分で予想を立て、方法を考え、検証する理科学習のおもしろさに気づき、「理科が好き」「理科が楽しい」と感じる児童が増えてきました。

本研究の具体的な取組としては、

1 『楽しい理科』の授業づくりのために

驚きと感動のある自然との出会いの場を大切にしました。特に、単元導入時には、自由試行活動の場を意図的に設定し、対象となる自然や事物にそれぞれの思いで自由に接することができるようにしました。その結果、児童の疑問や気づき、多様な発想や解決したいと思う意欲を引き出すことができました。また、自由試行活動での疑問などを出し合わせ、解決したい課題を話し合わせた結果、以後の解決活動がより主体的になりました。

2 『わかる理科』の授業づくりのために

予想での練り上げを大切にした授業づくりに努めるとともに、T・Tによる指導体制により、児童の多様な発想に対応した問題解決活動の場を保証しました。その結果、児童は、見通しをもって、

意欲的に問題解決に取り組むようになりました。さらに、フロンティアタイムとして発展的・補足的な学習の場を設定した結果、学習内容の定着・深化を図ることができました。

3 『学び合う理科』の授業づくりのために

相互に関わりながら学び合う場を大切に、互いの良さを共感的に評価する授業を心がけました。その結果、つまずきを恐れずに取り組むようになり、児童の成就感や自信につながりました。



フロンティアタイム

〈うつくしま豊かな心成長支援事業の取り組みと成果〉 柳津町立柳津中学校

本校では、学校行事や総合的な学習の時間を中心に、地域や人とのかかわりを大切にしたい体験活動を実施することを通して、生徒の豊かな心の育成に努めてきました。総合的な学習の時間における実践の一端を紹介します。

《郷土への愛着を深める》

第1学年での郷土学習では、町内の観光施設や役場職員、観光客へのインタビュー、河川の環境



第1学年 「観光客にインタビュー」

調査などを通して、郷土に対する理解を深め、郷土に対する誇りや愛着を深めることができました。

《自己の生き方を見つめる》

第2学年での進路学習では、自己の興味・関心に基づく職業体験を通して、職業への理解を深め、それぞれの職業に就いている方の思いを知ったり、希望する職業に就くことへの意欲を高めたり、また、職業の厳しさに触れ、自己の生き方を見つめ直したりすることができました。

《平和への思いを伝える》

第3学年での平和学習では、沖縄への修学旅行での体験を生かし、沖縄戦を題材とした劇を創作し発表しました。外部講師を招いての手話や発声法の練習や、シナリオの作成や演技の工夫などの劇の準備や発表を通して、平和の基盤として、思いやりの心や互いの立場の尊重、自己の思いを伝えることの大切さを実感できました。



学校教育相談だより 問題解決率の向上をめざして

福島県学校教育相談員 山内 昇

平成16年度二学期末までに学校教育相談員が扱った相談件数は、昨年度同期と比較すると、訪問相談件数では若干減少しているものの、ダイヤルSOSにおける相談及び来所相談の件数は増加しています。

相談の内容を大まかに分類すると、訪問相談では、小学校が「不登校」「就学指導」「身体・精神不安」の相談が全体の70%以上を占めているのに対し、中学校は「不登校」についての相談が全体の80%を超えている状況です。ダイヤルSOS及び来所相談の

内容は広範にわたり、相談の多い項目を特定するのは困難です。しかし、小学校で、「いじめ」についての相談が微増傾向を示していることや、中学校の「学校に対する不満」がなかなか無くならないことが気になります。

学校教育相談事業は、現在、相談の内容によっては、他の相談機関や医療機関と連携し、または地域教育相談推進事業に対応を委ねる等により、問題解決率の向上に努めております。

地域に学ぶ

伝えたい年中行事
三島町教育委員会

南山御蔵入には、金山谷郷以下5郷が置かれ、さらに金山谷郷の配下には大谷組、滝谷組など5ヶ組が置かれていた。大谷、滝谷、大石（一部）組は藩政時代の三島町の呼び名である。「大谷組地志方風俗帳」文化4年（1807）によれば「寒暑の儀は若松より寒強く暑は弱く、9月末より雪降り、6・7尺より1丈も積り、4月末まで消え残り…」とあり、田畑耕作の特殊性から風俗風習まで会津盆地とは違っていった地域と書かれている。紙漉、炭焼、養蚕など栽培暦を含め、農事のあれこれについて記してあり、それと同時に収穫までの過程は自然暦として生活に密着し、その折々には繰返し行事が行われていた。烏追い、サイの神、愛宕様の火、ひな流し、虫送り、など各戸や地区ごと、あるいは全地区に伝わっている行事でも一様でなく、親から子、子どもから子どもに伝えられ、時代を超えて実施されてきている。生活様式が違った今だからなお藩政時代の暮らしの一端を続け地域の員として行事に参加する子どもたちは、これらの行事を通して約束ごとや決まりごと等の社会規範を自然と身につける学習の場ともなっているのである。



虫送り

心に残る人々



喜多方市教育委員会教育長

鈴木 充正

「鈴木君は会津人だよね。あれは初市のたたき売りだ」

教育実習で初めての授業、指導教官U氏からの言葉である。多弁であったこと、一方的であったことなど、自分なりに反省はしたが無念であった。

翌年、教師としてスタート。授業づくりを重ねていくにつれ、U指導教官の言葉が思い出され、その意味するものが、ただならず大きな意味を持つことが分かってきた。いわゆる授業の質を問う教師の「言葉遣い」の問題である。

以来このことは、自分にとって授業実践上の課題となり、およそ三十有余年学校を離れるまで、常に追い求めるテーマとなった。教師のいい加減な言葉からは、児童生徒の思考や感想もいい加減なものしか生まれないこと、感受性や創造力さえも養えないことを知ったのである。

U指導教官は、当時作文指導で県内外に名をとどろかせていた実践家であった。すでに故人となられて久しいが、自分にとってまさに的を射た名指導を残してくださったと思っている。



私の抱負



立村 昭和中学校 校長 児島 正志

体験を生かして

昨年は、各地で自然災害に見舞われ多くの方々が犠牲になりました。昭和村でも豪雨に見舞われ大変な被害を受けました。当日の午後、本校では思春期講座と保護者会を予定しおりましたが、急きよすべて中止し、生徒の安全確保のため村公民館に避難し無事下校させることができました。この災害から「地域と連携を図る」「教育委員会・PTA役員と相談する」「決定した内容を各位に報告する」これらをいかに迅速かつ的確に行うことが重要であるかを再認識させられました。

この体験を生かして非常事態に備え、機会あることに「危機管理マニュアル」を見直して生徒・職員一人ひとりが的確に判断し行動できるように努めていきたいと思いま



立津町立西会津奥川小学校 教頭 伊藤 徳伸

伝統ある奥川小で

二学期が始まり、奥川の冬も一層厳しさを増してきました。校庭には今年も除雪車で雪を集め、大きなスキー山ができました。

昨年の春、校庭にまだ多くの雪が残る奥川小に赴任して、一年がたとうとしています。あれから一年、慌ただしくも自分自身にとって充実した毎日を送ることができました。

奥川小には伝統ある合奏部があり、放課後には学校中に楽器の美しい調べが響き渡っています。更に、奥川には学校と地域の方々が連携して取り組んでいる、地域の子どもたちの居場所づくり「こめらっ子」活動があります。この伝統ある学校で、地域の方々と更に連携を密にし、心豊かな子どもたちを育てていきたいと思えます。



立津町立猪苗代中学校 養護教諭 我妻 あすか

一年を振り返って

月日がたつのは本当に早いもので、私が猪苗代中学校に着任してから、もうすぐ一年がたとうとしています。

周りの先生方や保護者の方々を支えられ、助けていただきながら、私はこの一年間で沢山のことを学びました。その中でも、子どもたちと接する中で「相手は自分の鏡である」ということをとても痛感しました。声のかけ方、言い方ひとつで子どもたちは変わってしまうので、いつでも自分自身にゆとりを持ち、子どもたちの目線になって考え、接していきたいと思えます。また、親身になって話を聞き、これからは子どもたちと共に歩んでいきたいです。

さらに、教員としての資質や力量を高めるための努力も続けていきたいと思えます。

作品と指導

工作

『光のオブジェ』

新鶴村立新鶴中学校

3年 黒森 雄斗



針金を芯材として骨組みを作り、表面に和紙を貼った立体オブジェとしてのランプシェイド作品です。構想と骨組み作りに根気強く取り組み、造形的な美しさのある作品になりました。和紙から漏れるやわらかな光も魅力的です。

指導者 鈴木 健治

習字

『日』

熱塩加納村立加納小学校

3年 長谷川 樹



まず、横画と縦画の部分練習を行いました。次に、折れは、横画の終わりで一度止め、そのまま筆の軸を回さずに真下に書き進める練習を行いました。画の接し方、画の間隔等にも注意し、字形を整えて書くことができました。

指導者 大島 陽平

絵

『かにの反撃』

河東町立河東第二小学校

3年 菅井 航平



もし蟹が木に登れたら・・・という場面設定で描いています。地面にいる蟹と上にいる蟹の大きさを変化させることで遠近感を、蟹の色を変化させることにより、怒りの高まりをイメージ豊かに表現することができました。

指導者 渡部 由香